

中国・瀋陽師範大学短期プログラム

北海道教育大学函館校 地域協働専攻国際協働グループ 1年 逢坂香穂子

今回短期留学プログラムに参加して、2月27日から3月12日まで瀋陽市の瀋陽師範大学に滞在しました。瀋陽師範大学は敷地が125万平方メートル、学科は教育を主とする9つが存在し校内では2万5千人が生活、留学生は56か国から千人を受け入れているという非常に大規模な学校でした。学生は皆寮で生活しているため、私たちも国際教育学院という留学生のための寮に入りました。私たちの寮は南区にありましたが、実際に授業が行われる建物は北区にあったため、学校の広大な敷地の中を毎朝20分ほどかけて歩いて通っていました。中国語の授業は口頭での簡単なテストによってクラス分けされました。教室に行ってみると、ロシア、韓国、ヨルダン、ナイジェリアなどの様々な国からやってきた留学生がいました。彼らとコミュニケーションをとる手段は英語だったため、もっと英語が話せればよかったと後悔しました。でも、いざとなったらジェスチャーと表情でも話は伝わりました。彼らと話をしてみると、私が全く行ったことのない国の生活の様子などを知ることができたので面白かったです。授業は英語を媒介語として3人の先生が担当してくださり、初歩的なことから丁寧に教えてくださったので毎日楽しく学ぶことができました。授業をしながら、面白いと思ったのは漢字です。たくさんの国の人と一緒に勉強をしたことで、幼いころからずっと学んできたために私たちが当たり前のように使う漢字は、中国・日本以外の国の人にとっては不思議な絵のような記号のようなものであるということに気がきました。日本の文化を客観的に見ることで面白かったです。



(日本語学科の学生の皆さんとご飯)



(大学の正門)

授業は午前中で終わるので、午後は中国の文化体験をしたり大学の日本語学科の学生の皆さんと一緒に出かけたりしていました。文化体験は中国茶道、太極拳、伝統音楽の鑑賞、餃子づくりなどをしました。自分自身で実際に体験することで、日本の文化と似ている点、異なる点を発見することができて、異文化理解のための非常に良い経験になったと思います。日本語学科の学生は瀋陽市の様々な場所に連れて行ってくれたり、ご

飯に連れて行ってくれたりと多くの場面で私たちを助けてくれました。私たちと話をするときは全部日本語で、本当にすごいと思いました。食事に行った時も、私たちの好みに合うように気を遣いながら注文してくれて本当に優しいし、心強かったです。感謝の気持ちでいっぱいです。もっと中国語を勉強して、今度は彼女たちの母語で話をしてみたいと思いました。

今回のプログラムに参加する前に「何事にも積極的に取り組む」という目標を立てていました。私は普段怠けがちで自ら行動を起こすということがあまりありませんでしたが、今回の短期プログラムで日本語学科の学生を自分からご飯に誘ったり、同じクラスになった色々な国から来た留学生に自分から話しかけて友達になることなど目標達成に向けて努力することができたので大変有意義な時間を過ごすことができたと思います。私は一人でこのプログラムに参加したので不安でいっぱいでしたが、教育大学の他の参加者の皆さんに良くしていただいたおかげで非常に楽しく過ごすことができました。今回は語学の大切さに気付くと同時に、人との関係の大切さも学ぶことができたと思います。これからの勉強への意識を高めるきっかけにもなり、一生の思い出もたくさん作ることができて本当に素晴らしい人生の経験になりました。勇気を出してこのプログラムに参加して良かったと思います。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



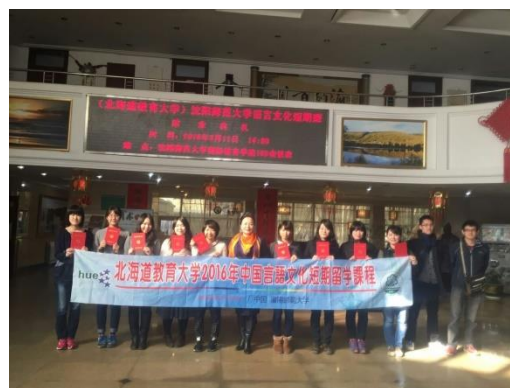
(日本語学科の学生と故宮)



(老辺餃子館)



(北陵公園と大きな綿あめ)



(修了式を終えて)